

ハエのなかま

いわゆる“ハエ”です。「がっしりした体」と「短い触覚」が主な特徴ですが、アブのなかまとよく似ているので、慣れないうちは見間違いやすいです。



① イエバエ科

ハエらしいハエです。イエバエ科の“イエ”は“家”のことで、家の近くでよく見られます。イエバエ科、ヒメイエバエ科、ハナバエ科、クロバエ科、ニクバエ科などは良く似ているため、下のような写真だけでは、そのうちのどれか分からないことがよくあります。

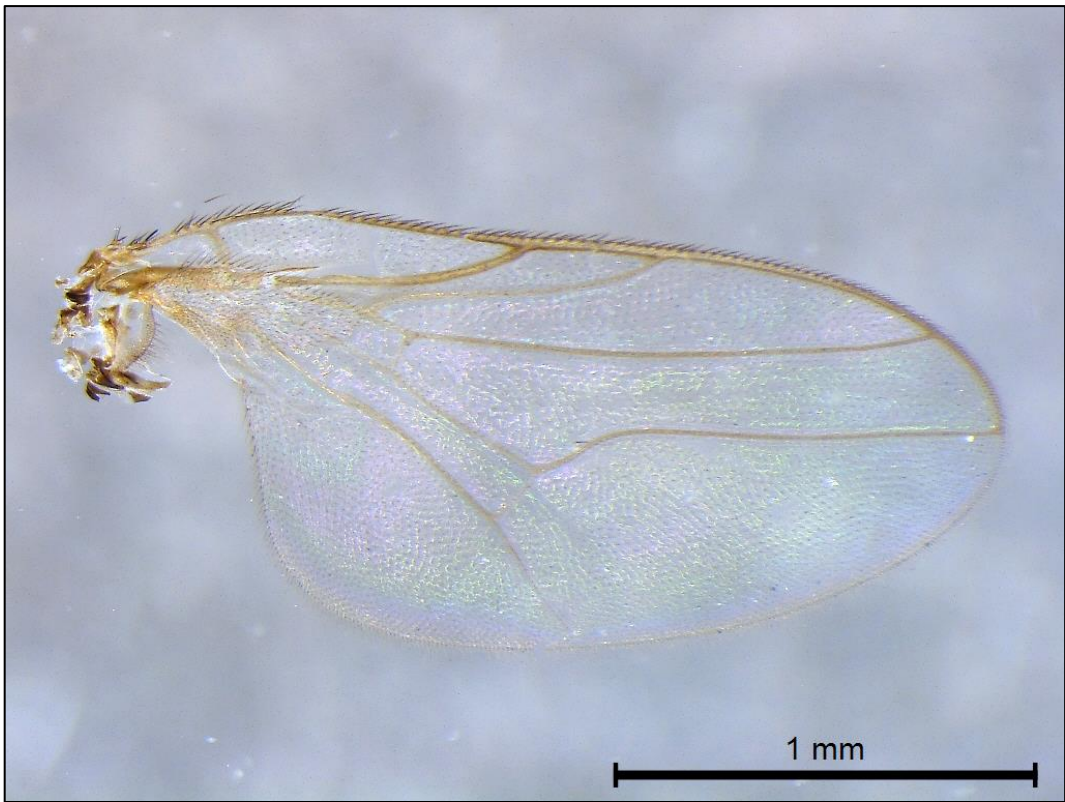
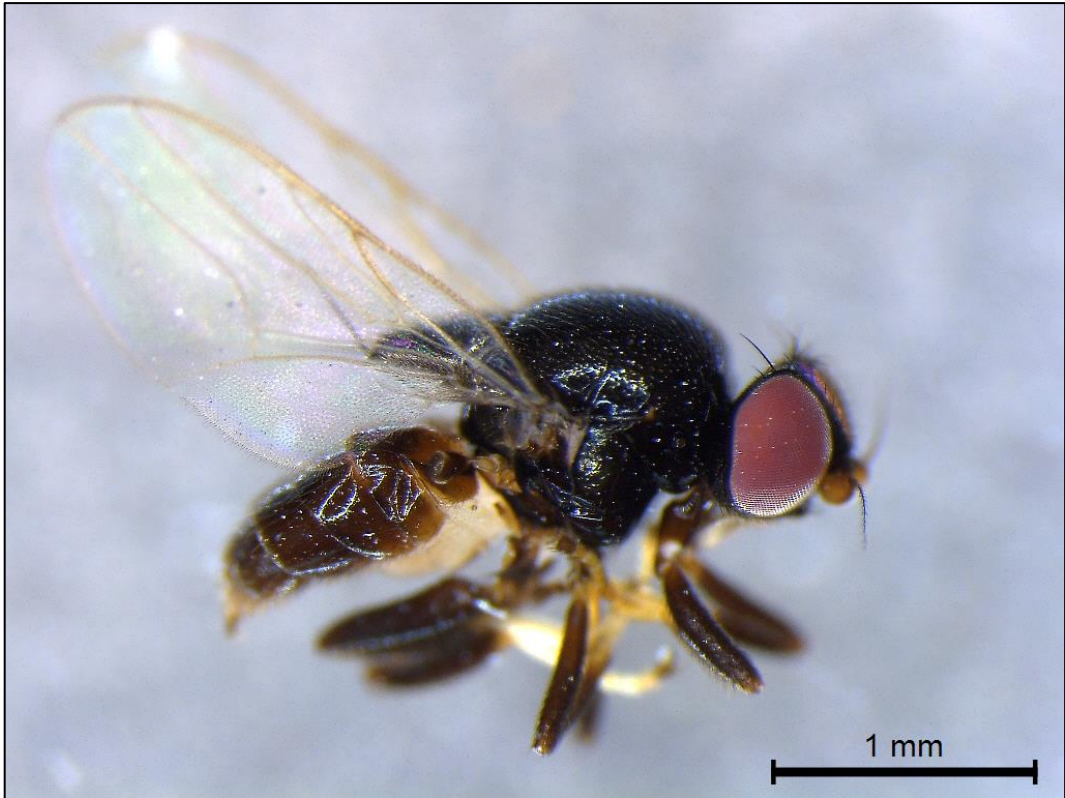


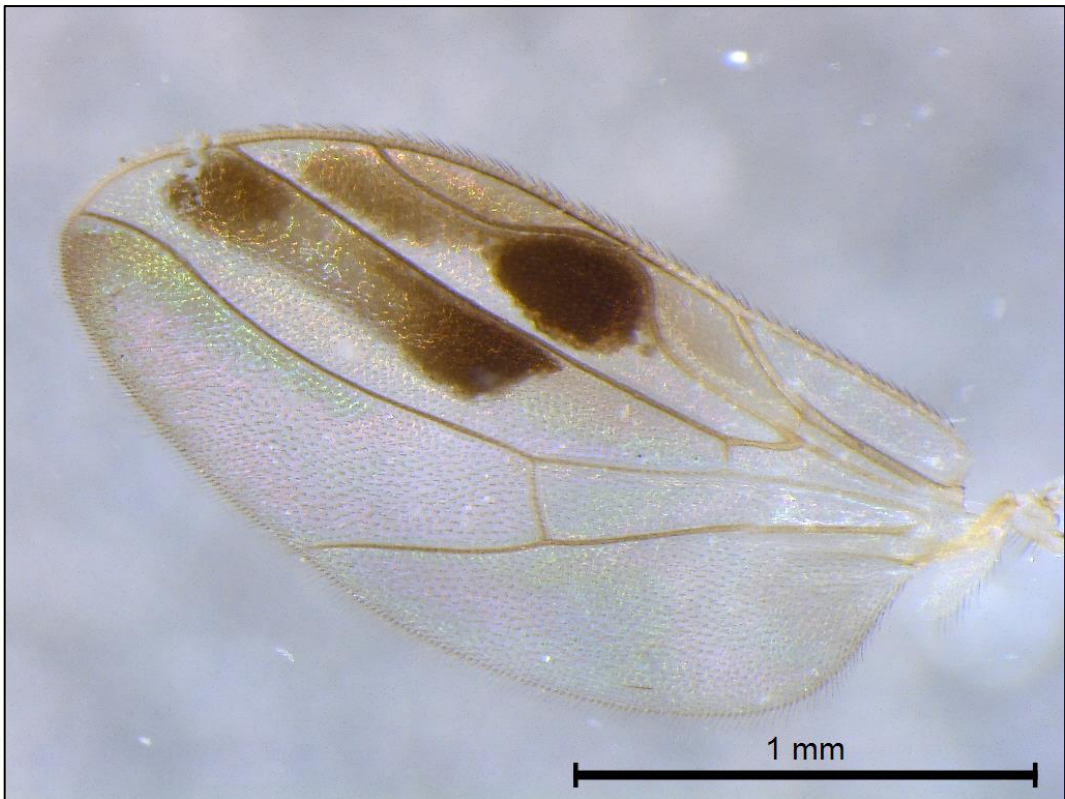


②キモグリバエ科

小さいハエでありあまり目立ちません。しかし、体が鮮やかな色をした種類や翅におしゃれな模様がある種類もいます。

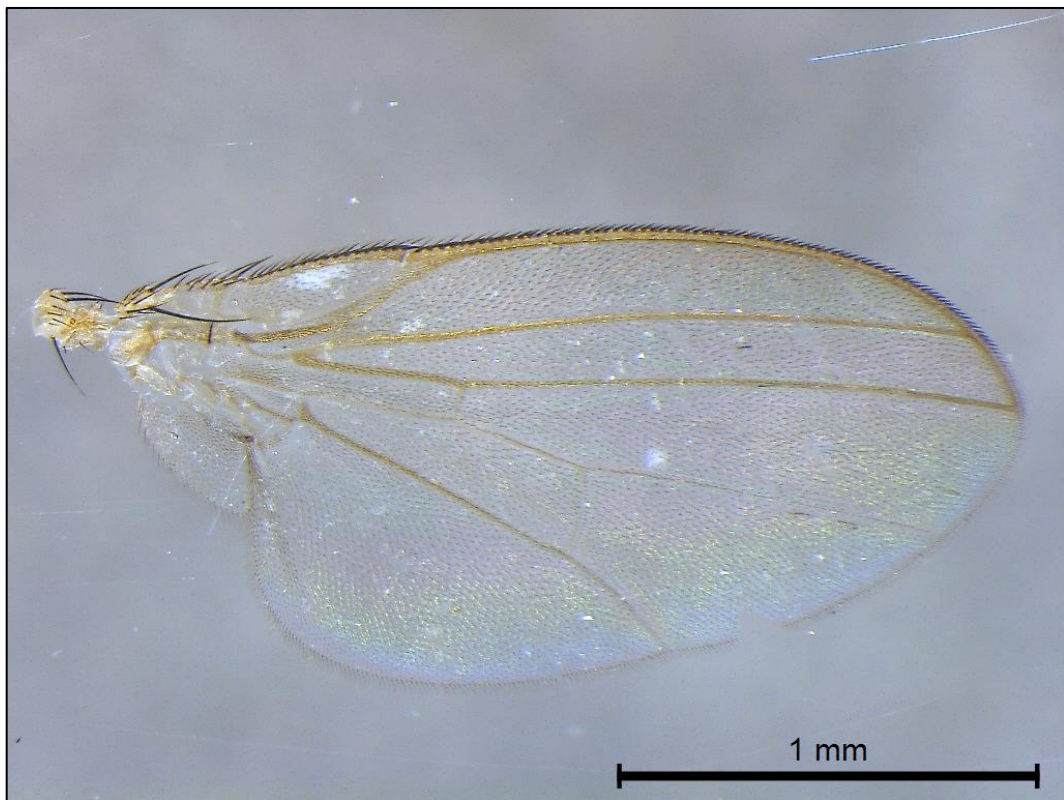






③クロコバエ科

小さいハエでありあまり目立ちません。ちなみに、下の写真の種類は、口が長く伸びていて面白いです。



④クロツヤバ工科

小さいハエでありあまり目立ちません。クロツヤバ工科の平均棍は基本的に黒色であり、見分ける際には1つのポイントになるのですが、肉眼ではよくわかりませんね。





⑤クロバエ科

“キンバエ”と呼ばれる金属色をしたハエの多くはクロバエ科になります。ただし、見た目の良く似たイエバエ科などにも金属色の種類がいます。クロバエ科は腐った肉や野糞に集まる種が多く、不潔なため、通常、害虫として扱われます。





コラム10 ハエの毛その1

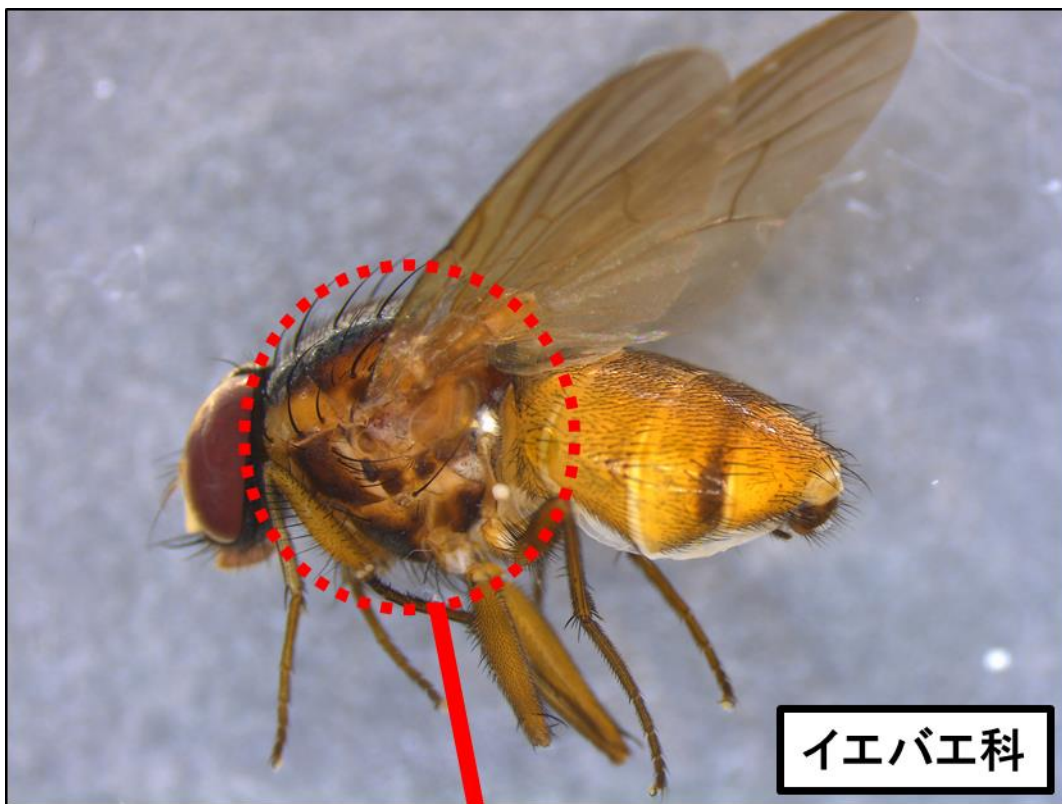
ハエの体にはたくさん毛が生えています。太い毛や細い毛、羽毛のような毛と様々です。翅脈と同様、これら1本1本の毛にも名前が付けられていて、ハエを分類するのに役立ちます。試しにイエバエ科とクロバエ科を毛で分類してみましょう。

次のページにはイエバエ科とクロバエ科、ヤドリバエ科の胸部を横から見た写真を載せています。写真がうまく撮れなかったので、肝心の毛が見つらいですが、ご了承ください。ポイントは中足の付け根と後足の付け根の間のスペース（正しくは「中脚の副基節」といいます）です。イエバエ科は基本的にこのスペースに毛が生えていないか、あるいは、弱い毛しか生えていないのですが、クロバエ科は強い毛が縦に並んで生えています（水色点線内）。この違いが2つの科を見分ける上で大切です。なお、イエバエ科の中には、このスペースに強い毛が生えているものもいるので、実際には、翅脈など他の部位も観察した上で、イエバエ科かクロバエ科かを最終的に判断します。

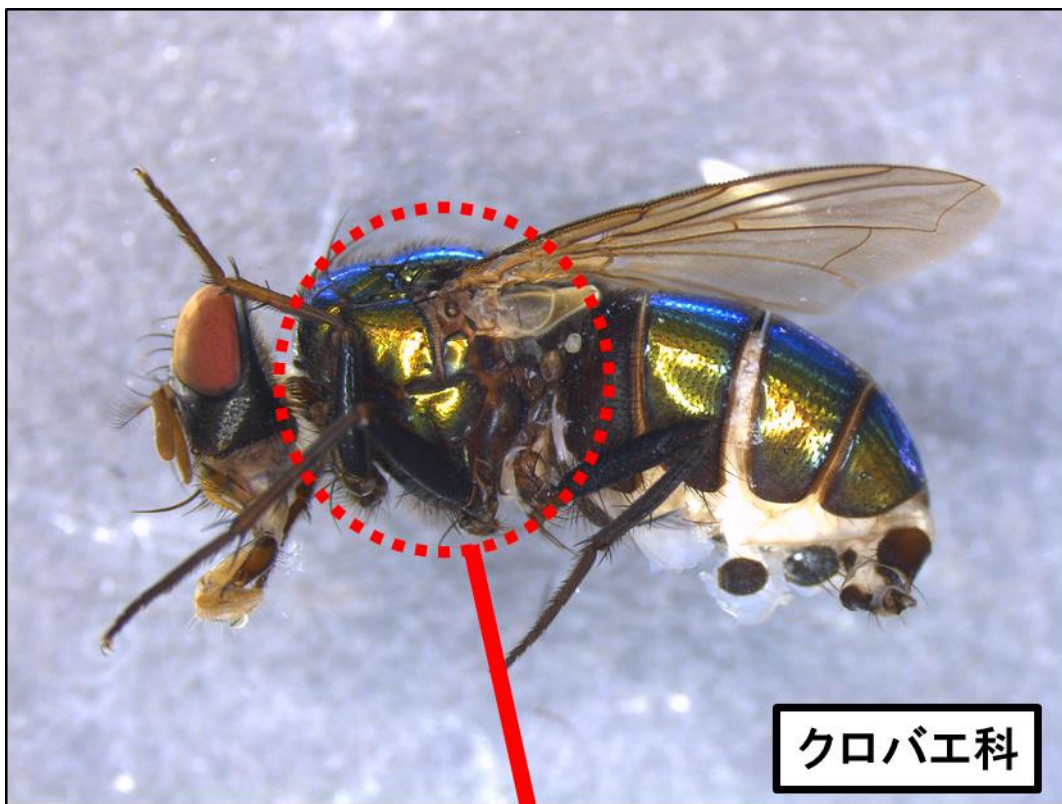
イエバエ科、ヒメイエバエ科、ハナバエ科、クロバエ科、ニクバエ科、ヤドリバエ科は良く似ていて、分類も難しいのですが、上で述べたスペースに生えている毛に注目すると、基本的には、下のように分けることができます。

- ・ 中脚の副基節に強い剛毛が縦に並んで生えている
 - クロバエ科、ニクバエ科、ヤドリバエ科
- ・ 中脚の副基節に毛は生えていないか、あるいは、弱い毛しか生えていない
 - イエバエ科、ヒメイエバエ科、ハナバエ科

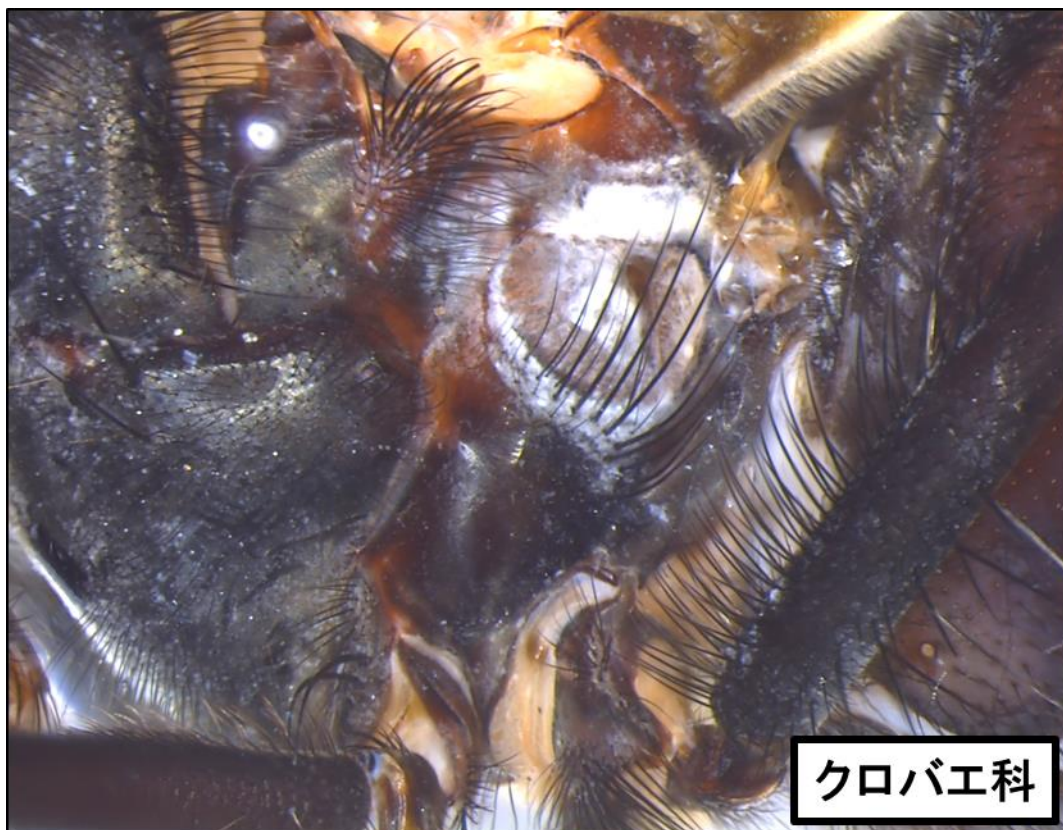
コラム10 つづき



コラム10 つづき



コラム10 つづき



⑥ シマバエ科

あまり特徴のないハエですが、市街地でもよく見かけます。





⑦ ショウジョウバエ科

発酵臭が好きで、樹液や腐った果実、お酒などに集まってきます。家の中にも入ってくるので困りものです。ちなみに、“ショウジョウ”とは中国のお酒好きの妖怪です。ショウジョウバエ科は、お酒に集まってくることと、眼が赤く酔っぱらっているように見えるので、こう名付けられました。





コラム11 ハエの翅脈その2

ハエの翅脈を見るのに慣れていない頃に、つまづきやすいのが、「C脈の切れ目」です。ショウジョウバエ科とシマバエ科を例に「C脈の切れ目」を探してみましょう。

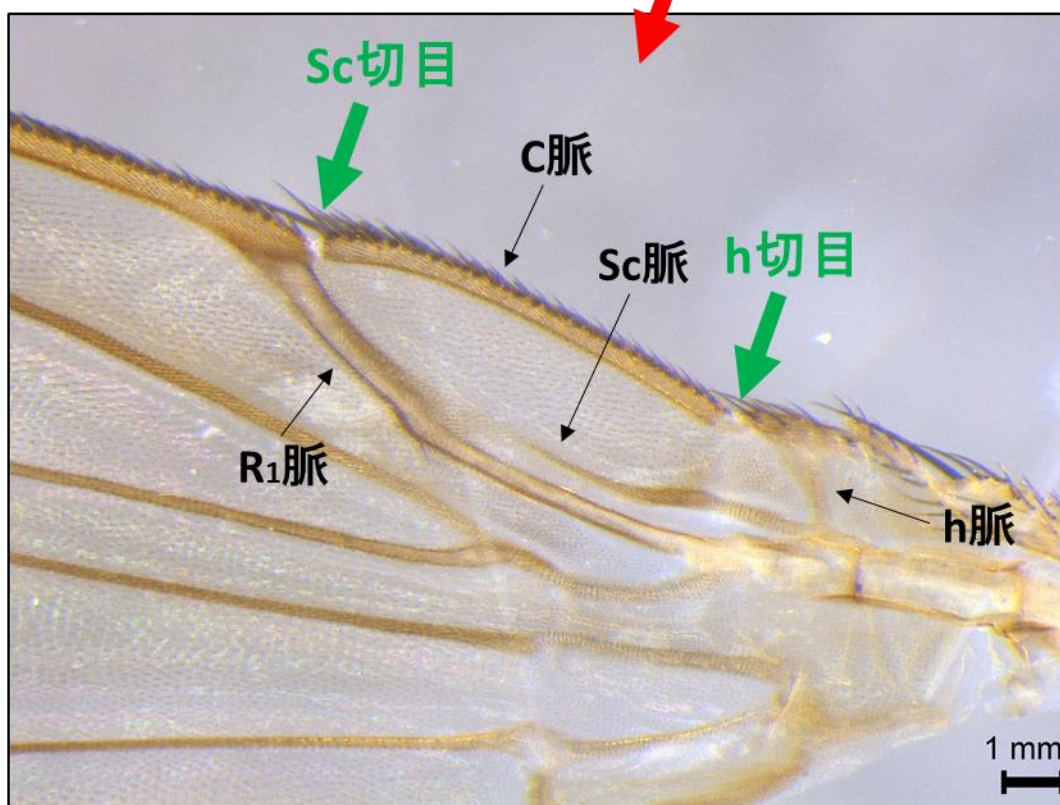
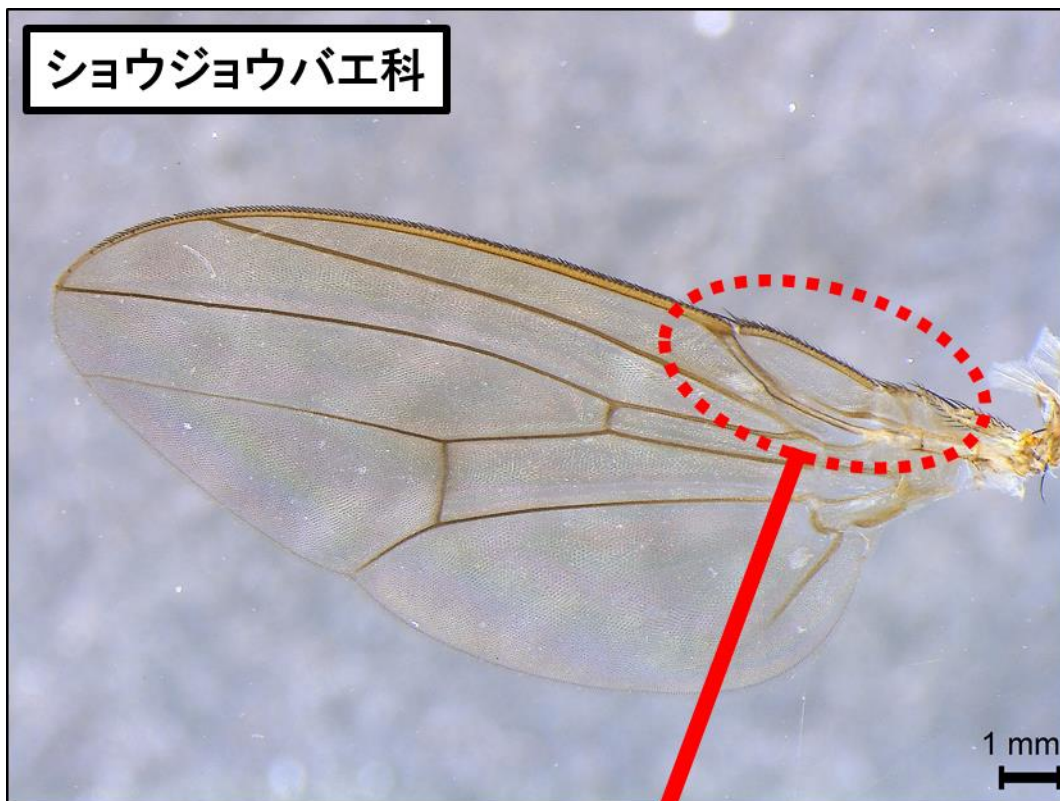
次のページには、ショウジョウバエ科とシマバエ科の翅の写真を載せています。コラム5（15ページ）では、 A_1 脈とCuP脈という後方の脈に注目しましたが、今度は前方の脈に注目します。C脈は翅の前方を縁取る翅脈ですが、ハエには、C脈に切れ目が2か所あるものや1か所だけあるもの、切れ目が全くないものがあります。ハエの中でも^{むべんしるい}無弁翅類と呼ばれるグループ（ショウジョウバエ科とシマバエ科はこのグループに所属しています）では、これを観察することが分類する上で重要になってきます。

C脈の切れ目には名前が付けられていて、h脈とC脈が合流した直後の切れ目を「h切目」、Sc脈とC脈が合流するあたりの切れ目を「Sc切目」と呼びます。ショウジョウバエ科にはh切目とSc切目の両方がありますが、シマバエ科には切目が全くありません。

ちなみに、ショウジョウバエ科はSc脈が途中から薄くなって消えてしまうのですが、シマバエ科ではSc脈はC脈と合流するまで完全に存在しています。他科にはSc脈と R_1 脈が融合しているために、Sc脈と R_1 脈を区別することができないものもいます。C脈の切れ目と同様、Sc脈も^{むべんしるい}無弁翅類の分類では重要なポイントです。

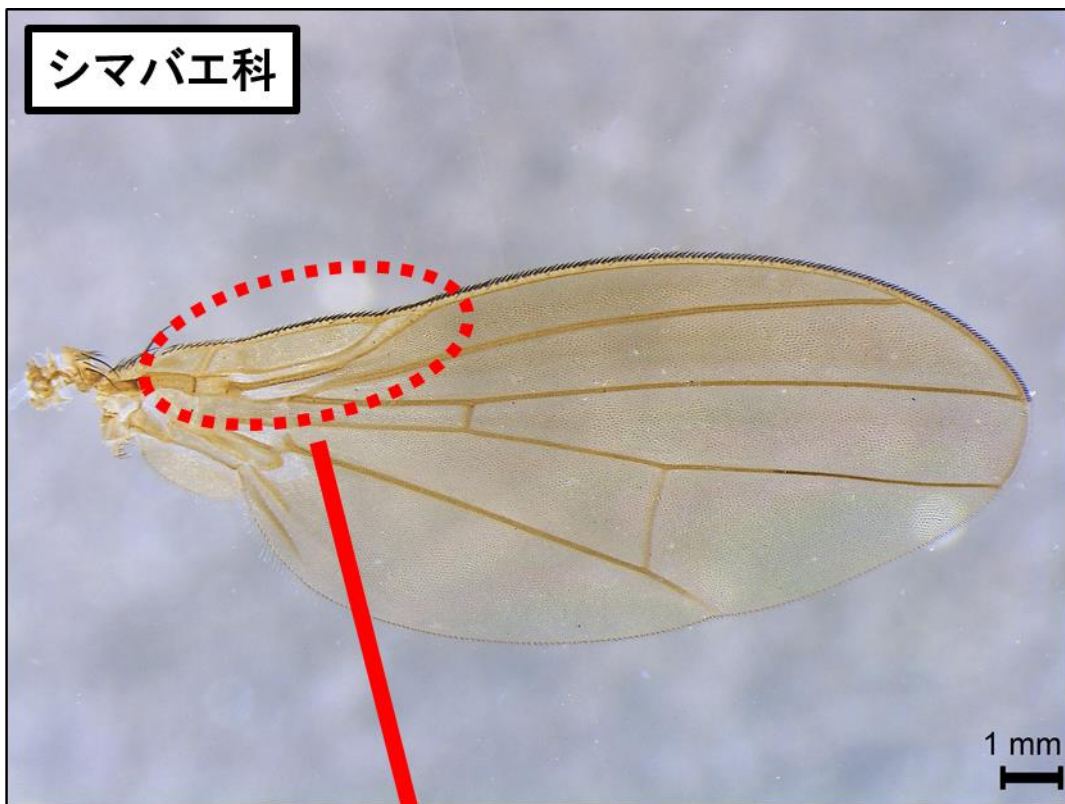
コラム11 つづき

ショウジョウバエ科

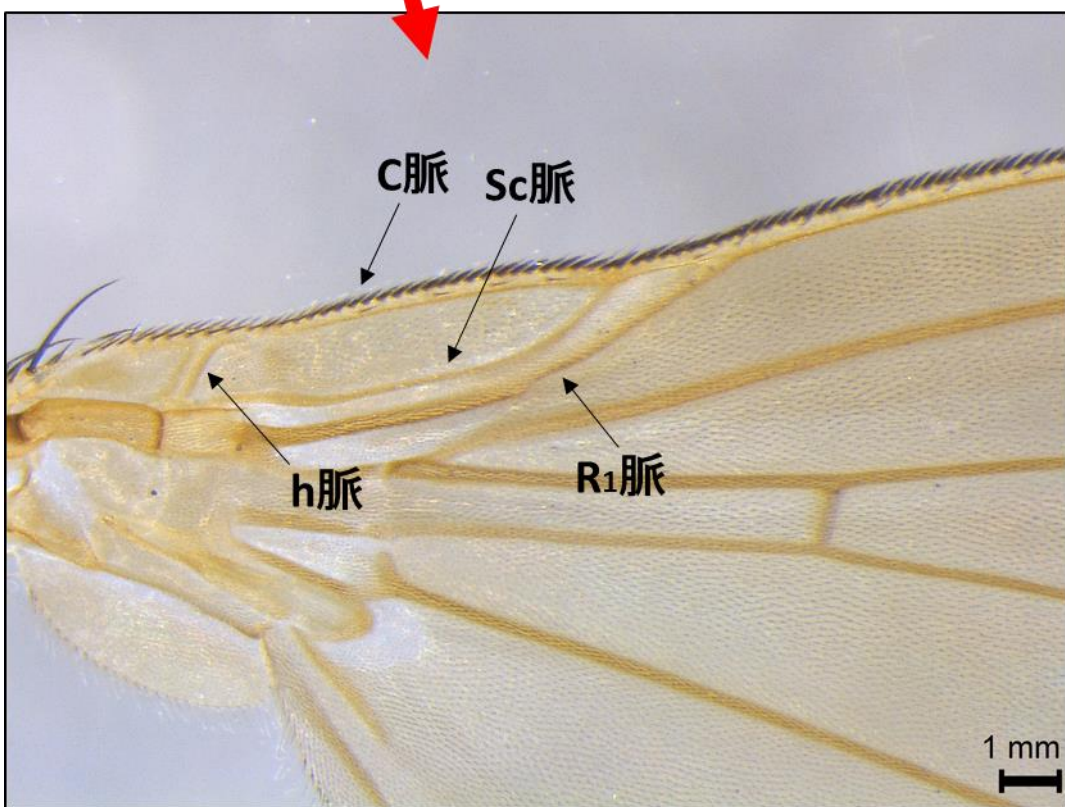


コラム11 つづき

シマバエ科



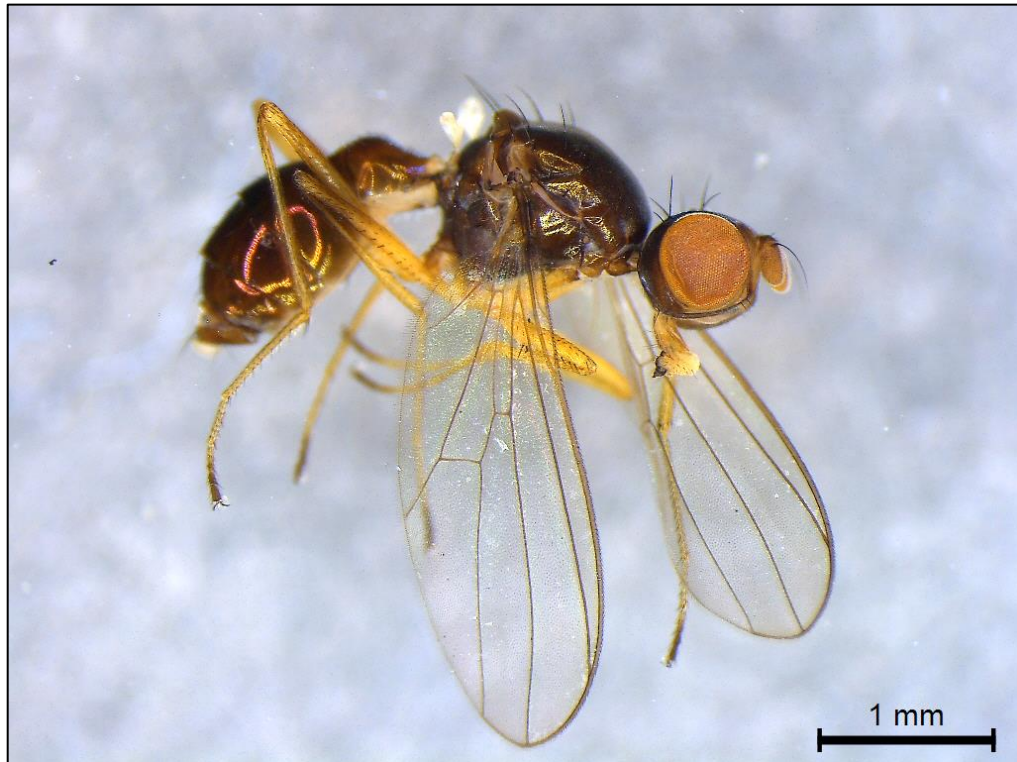
1 mm



1 mm

⑧ ツヤホソバエ科

アリに似た形のハエです。下の写真の種類には無いですが、翅の先の方に黒色の模様がある種類も多いです。



⑨デガシラバエ科

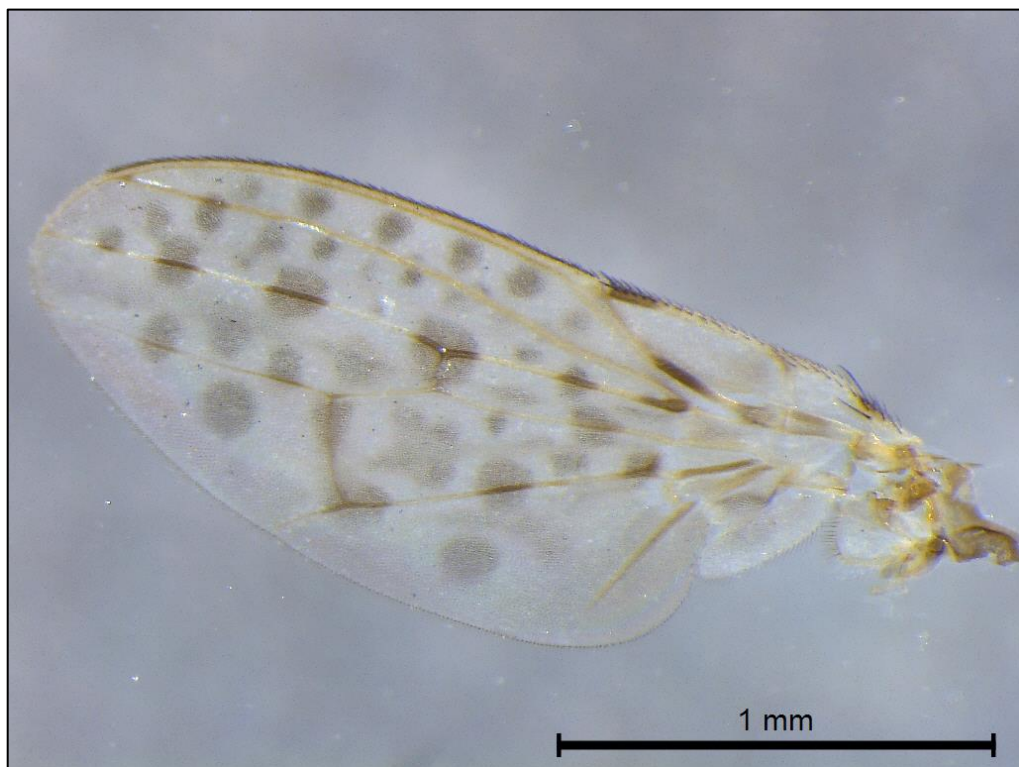
下の写真はオオハチモドキバエといいます。ハチにそっくりですが、刺されるといことはありません。ハエの中にはこのように、ハチに擬態したものも少なくないです。



※ 背景は5mm方眼紙です

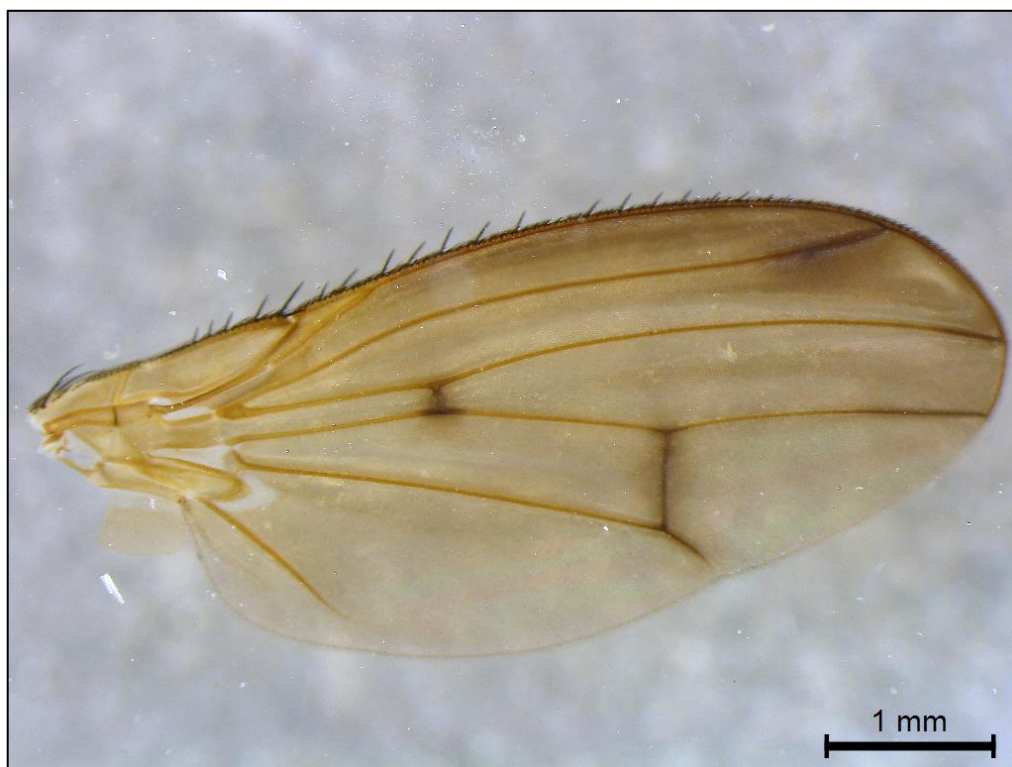
⑩ トゲアシモグリバエ科

キモグリバエ科に似ていますが、別の科になります。下の写真の種類は頭にこぶがあります。



⑪ トゲハネバエ科

翅の前方に規則正しく刺のような毛が生えているのが分かるでしょうか。それが名前の由来です。見た目はやや格好いいですが、トイレが好きなハエで基本的に害虫です。



⑫ ナガズヤセバエ科

特徴的な長細い体をしたハエです。樹液が好きなので、夏にカブトムシやクワガタムシを探していると出会うかもしれません。



⑬ニクバエ科

やや大きなハエで、灰色の種類が多いです。名前のおり肉食で、動物の死体からわいてくることもあります。基本的に、ゴミ溜めやトイレなど汚いところで暮らしているハエなので、害虫として扱われます。





コラム12 ウンコの上で何してるの？

ハエと聞いて、下の写真のような場面を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか(汚くてすみません)。ハエはウンコの上で何をしているのでしょうか？

ウンコには消化管で吸収しきれなかった栄養や水分が含まれています。ハエはこれを目当てにウンコに集まってくるのです。なかなか合理的な考え方をしますが、美味しいのでしょうか？

ちなみに、全てのハエがウンコに集まるわけではなく、花の蜜や花粉を食べたり、他の昆虫を狩ったり、樹液を舐めたりと、種類によって好きな食べ物は様々です。



⑭ ノミバエ科

翅脈が非常に特徴的なハエです。家の中に入ってきて、食卓や台所などの上を素早く歩き回り、うっとおしいです。

